

## IoT技術活用と積極的設備投資により生産性向上 同社保有技術を活用した迅速な新製品開発

創業当時は下請受注が主であったが、1989年頃からCDケースの生産を開始。CDの普及とともに生産量も大幅に増加し、2003年の新工場完成も相まって生産量は国内トップクラスを誇る。音楽CDの需要はピーク時より落ち込んでいるが、DVD・BDケースの受注が堅調。2016年には経営革新計画を取得し、より高精度の成型品製造を可能とする設備投資を実施。近年は2.5次元の厚みの印刷やアクリル板への印刷、IoTによるリアルタイム管理等に取り組み、持続的な業容拡大を図っている。

所在地	山梨県笛吹市御坂町金川原1110-4	設立	1948年
電話/FAX	055-261-7600 / 055-262-7388	資本金	3,000万円
URL	<a href="http://www.tatsuzawa-kasei.com/">http://www.tatsuzawa-kasei.com/</a>	従業員数	79人
代表者	代表取締役社長 立澤 正彦		



### IoT技術を活用した生産性向上

安定した射出成形を行うために、IoT 技術を活用し、射出成形機における一回あたりの成形データをリアルタイムで管理可能なシステムを構築している。同システムはスマートフォンとも連携しており、迅速に成形物のトレースが可能となっている。これにより、異常があった場合でも機械の稼働停止時間を最小限に留められること、データ蓄積による問題発生時の極小化が図られている。また、生産管理能力の高さから取引先からも信頼を得ている。



IoTを活用したシステム

### 積極的な設備投資による生産量拡大・業務効率化・リサイクルの推進

一般生活に密着した大量生産品の部品製造を行っていることから、短納期かつ大量生産体制の構築が求められており、同社は毎期積極的な設備投資を実施することで、生産時間の短縮・生産量拡大に取り組んでいる。また、社長自身が現場に立ち入り、生産ラインの見直しを行っている。近年は工場内をドローンで撮影することで、肉眼では把握しがたい部分の改善に取り組んでいる。なお、プラスチックごみ削減のため、客先と提携して、使用済み DVD ケースを回収、粉碎して原料に戻すラインを構築し、その再生材料を使用して DVD ケースを供給するサイクルを確立しており、SDGs の取組の一環として活動している。



工場内風景

### プラスチック射出成形技術を応用した新製品の開発

プラスチック射出成形技術を応用した製品開発に余念がなく、過去に数件の特許製品を開発している。同社の企業理念である「“あったらいいな”をモットーにゼロからものづくりを始め、試行錯誤しながら短期間で製品化を実現すること」に基づき、社長自らが率先垂範して新製品開発に取り組んでいる。直近の新型コロナ対応でも同様であり、各種感染防止器具が不足しているとの報道が出た段階で、同社技術でできることはないかと検討した結果、関連製品の迅速な市場投入が図られている。



足踏み式消毒ポンプスタンド